



事例報告

広島大学学術情報リポジトリ



広島大学図書館部
学術情報リポジトリ主担当
尾崎 文代

今日お話しすること



1. 広島大学学術情報リポジトリの概要
2. 公開までのプロセス
 - 2.1 体制
 - 2.2 日程
 - 2.3 学内説明会(合意形成)
 - 2.4 広報
 - 2.5 コンテンツ収集
3. これから

1. 広島大学学術情報リポジトリの概要

<http://ir.hiroshima-u.ac.jp/portal/>



A screenshot of the HIR website's main portal. At the top left is the HIR logo. To its right, the text reads '広島大学 学術情報' and 'Hiroshima University Institutional Repos'. Below this is a navigation bar with buttons for '一覧 (ブラウジング)', '簡易検索', '詳細検索', and 'コンテ'. A search box with a '検索' button is positioned below the navigation bar. A paragraph of text explains the repository's purpose: 'リポジトリとは、学内の教育研究成果物を収集・蓄積・保存得・研究成果のビジビリティ(可視性)向上といったメリット'. Below this is a 'CONTENTS MENU' section with a grid of buttons: '一覧(ブラウジング)', '学術情報リポジトリとは', '詳細検索', 'FAQ', 'コンテンツの登録', and 'リンク'. At the bottom, a table with columns for 'No.', 'Title', and 'Access' is partially visible.

- 2006.4試験公開 2006.10正式公開
- ソフトウェア: E-repository (CMS社)
- 2006.7現在登録件数
 - 学術雑誌論文 (462)
 - 学内刊行物(紀要等) (950)
 - 学位論文 (32)
 - 修士論文/卒業論文 (3)
 - 会議録/講演資料 (49)
 - プレゼンテーション資料 (11)
 - 科研費報告書 (5)
 - テクニカルレポート/ワーキングペーパー (1)
 - 単行書 (1)
 - 単行書の章 (6)
 - 電子教材 (14)
 - コレクション-教科書 (5596)
- 名称・シンボルマーク

2. 公開までのプロセス



2004.11 広島大学における学術情報のアーカイブ化と発信に関するWG の発足

- 企画会議（大学運営戦略会議）の下に設置。
- 大学全体の学術情報の効率的な利用と発信のあり方を検討。

2005.5 WG報告

- リポジトリの構築と運用は、全学的な合意と学内構成員の協力と理解により実施する。
- リポジトリの設置・運用を図書館部が所掌する。
- 予算は、学内措置の他、外部資金の獲得も視野に入れる。

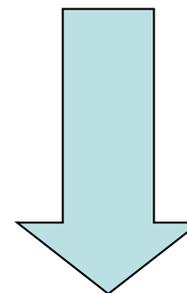
2005.7 企画会議 で承認

2.1 体制



2005.4 電子図書館構築・整備委員会（図書館内：7名）

- コンテンツ収集班
- システム調達班
- 学内合意形成班



2005.12～2006.3

専任チーム設置

（拡大電子図書館構築・整備委員会：5名）

- 研究者になり代わってコンテンツを継続的に探し、集め、登録する。

2.2 日程 その1 (2005.4-11)



		平成17(2005)年度							
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
コンテンツ収集						調査	サンプルデータ収集		
システム調達						仕様策定		機種選定	
学 内 合 意 形 成	企画会議(大学運営戦略会議)		WG報告		了承				
	教育研究評議会							協力依頼	
	総務事務連絡会						協力依頼	説明会案内	
	部局等説明会							開催(17回)	
	全体説明会								開催(2回)
予算要求					学長裁量経費	採択	NII CSI事業	採択	

2.2 日程 その2 (2006.12-2007.3)



		平成17(2005)年度				平成18(2006)年度
		12月	1月	2月	3月	
コンテンツ収集		学術リポジトリ対応チーム 広報資料作成・コンテンツ収集・コンテンツ確認 許諾状況確認・メタデータ作成・コンテンツ登録				稼働
システム調達		業者決定	システム設定			
			サーバ設定	試運転		
学 内 合 意 形 成	企画会議(大学運営戦略会議)					
	教育研究評議会					
	総務事務連絡会	進捗状況報告				
	部局等説明会	開催(10回)				
	全体説明会					

2.3 学内説明会（合意形成）



1. 学内諸会議で発言
2. 地区別説明会
 - 教室系職員にも呼びかけ
3. 各研究科長を個別訪問し、協力依頼
4. 部局別説明会
 - 教授会に割り込み

2.4 広報 その1



準備サイト(広島大学)

<h1>広島大学 学術情報リポジトリ準備サイト</h1>		広島大学 学術情報リポジトリは 2006年4月本格稼働予定です ▶ 広島大学 ▶ 広島大学図書館
リポジトリ関連最新ニュース		
■ 広島大学 学術情報リポジトリ準備サイトを開設しました(2005.12.13)		
トップページ 研究者の方へ リポジトリ説明 コンテンツ送付 関連資料 問い合わせ先・部局別等対応窓口		
リポジトリってなに?	コンテンツ(論文etc.)を送る!	
学内で生産された論文などの教育研究成果物を収集・蓄積・保存し、学内外へ無償で公開するシステムです。国内外でこのリポジトリが増えていきます。	対象コンテンツは...>> 留意点: 著者最終稿をお送りください。著者最終稿とは...>>	

広報 その2

ILL利用者への 促進チラシ (北海道大学)

あなたの研究論文を 読みたくても 読めない人がいます

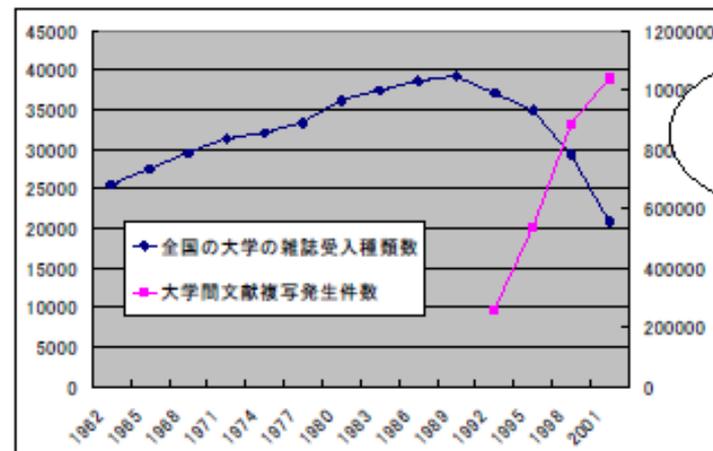
読者を増やそう！

HUSCAP:北海道大学学術成果コレクションの御案内

学術雑誌の価格は高騰を続けています。本学では共通経費化等の措置により、一定量のジャーナル・タイトルの購読を維持できていますが、それでも非購読誌の論文の入手にはこのように学外への文献複写に頼るしかありません。

世界の他の大学・研究機関でも研究に必要な文献の入手は非常に困難な状態になってきています。下図は、日本国内の大学における雑誌受入タイトル数と文献複写の発生数を示したものです。1980年代の終わりを境に、国内で閲覧可能なタイトルは半減しています。

あなたの研究論文を読みたくても読めない人がいます。著作を北海道大学学術成果コレクション(添付のパンフレットを御覧ください)から公開しませんか？



どこの大学でも
文献入手は
たいへん



広報その3

学食テーブル置きの三角スタンド (北海道大学)



2.5 コンテンツ収集



～2005.11

サンプル収集・調査・収集方針策定

2005.12～2006.03

専任チーム作業

目標 1,000 件

- 若手5名で結成。
- 広報活動。
- 研究者を個別訪問し、コンテンツをかき集める。
- 許諾確認。メタデータ作成。コンテンツ登録。

2.5 コンテンツ収集

当初の収集方針



1. コンテンツの種類毎に計画をたて、集めやすいものから始める。
2. 著作権ポリシーは図書館で調査。
 - 調べるツールが確立されていない。
3. 学術雑誌論文(商業誌)にウェイトを。
 - 「シリアルズクライシスに対抗している」という説得力。
4. 紀要はとりあえずNII個別版から流用。
5. 受入は電子化されたものに限定したい。
6. そしてやっぱりセルフアーカイブを…。

2.5 コンテンツ収集

その後の収集方針



1. 集めやすいものから始める。
2. 著作権ポリシーは図書館で調査。
3. もらえるものは全部もらおう。
 - 灰色文献の確保につなげよう。
4. もらったものはなんとかして登録しよう。
 - Greenでなければ出版社に直接問い合わせ。
5. 紙媒体も歓迎しよう。
 - スキャナを買いました。
6. セルフアーカイブはあっさり諦める。
 - そのうち頃合いを見計らって・・・。

2.5 コンテンツ収集

コンテンツ種別 傾向と対策



学術雑誌論文

- もらいがちな別刷り

著者稿の問題。最初の説明を徹底するか、業績リストを予め調べ、この版なら登録できるのでくださいと言う方が親切。登録不可と返却すると、研究者の温度も下がる。

- 国内学会・出版社へどんどんコンタクトを

セルフアーカイブに対するポリシーの確定していない所多数。持っていく方次第で「可能」の回答をくれる版元が多い。

広大の個別交渉状況(2006.6現在)

国内97機関 (可 52 否 3 保留 16 未回答 26)

2.5 コンテンツ収集

コンテンツ種別 傾向と対策



自学の紀要論文(学内出版物)

- 初期データは、NII個別版に依存
著作権はOKのはず。編集委員会に流用許可をもらう。
- もらいがちな冊子残部
電子化はスキャナの性能による？問題はメタデータ。
- 著作権ポリシーはわりと曖昧
電子化支援の機にポリシーの整備をはたらきかける。
NII研究紀要公開支援事業とのかかわり。
(広大の場合：今年度から中止して自前化の予定……)
- 論文単位か冊子まるごとか
EJ様のインターフェイス。

2.5 コンテンツ収集

コンテンツ種別 傾向と対策



学位論文

- 著作権は比較的くみしやすい？
原則、著者の許諾で登録可。
出版社版抜き刷りなど、別の著作権の問題。
特許・出版の問題。

修士論文・卒業論文

- 研究の芽
公開された著作物ではない。
学部によって発表会を秘密会にしている。
指導教員の同意をもらおう。(違う意味での秘密もある?)

2.5 コンテンツ収集

雑多な話題 その1



- 研究者の心理
 - 「いいえ私は卓越した研究をしていませんので」
 - 「私が率先して登録するのはどうも・・・」
 - 学長・館長に率先して登録してもらおう。(広告塔)
 - 学部ごとの一覧。みんなであれば何とか。
- 個人的に公開している資料の著作権はまず疑う
 - 調べてみて登録可能なものはいただいでいきます。
 - author's personal or intranet site のみ許可の場合もある。
- 草の根的フォロー
 - 資料を送付してもらったら必ず返事。
 - ご理解いただける先生の存在は心強いです。
 - 初期協力者の獲得。

2.5 コンテンツ収集

雑多な話題 その2



- 著者版の問題

まず、著者版を保存していない。

次に、持っていても完全ではない。致命的な校正がある。

それならば、出版社版からコピーして作る??

結果、出版社版(EJ)があればいいじゃないかということに。

(意義に逆行。)

→著者版を残していく方策を。



3. これから

1. 足元を固める

- 基本機能の定着。
- 何を集めるのか。→自機関でしか集められないものを。

2. 大学としてまとまる

- 業績データベースとのワンストップ化実現。
- 学内の各種データベースへの相互乗り入れ。

3. インターフェイスにこだわる(やっぱり見せ方も)

- これまで散乱しているデジタルコンテンツの器として
- 主題ポータルとして
- 電子出版として

4. 大切なのは育て続けること

- IRは育児のようなもの

